

相談援助の理論と方法

問題 98 次の記述のうち、人と環境との関係に関するソーシャルワーク理論として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 リッチモンド(Richmond, M.)は、「人」、「状況」、「人と状況の相互作用」の三重の相互関連性を説いた。
- 2 ピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)は、生態学的視座に立ち、人が環境の中で生活し、社会的にも機能していると説いた。
- 3 ホリス(Hollis, F.)は、パーソナリティの変容を目指し、人と環境との間を個別に意識的に調整すると説いた。
- 4 バートレット(Bartlett, H.)は、人々が試みる対処と環境からの要求との交換や均衡を、社会生活機能という概念で説いた。
- 5 ジャーメイン(Germain, C.)は、クライアントの環境は、アクション・システムなど、複数のシステムから構成されると説いた。

問題 99 家族システム論に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族内で生じる問題は、原因と結果が円環的に循環している。
- 2 各家族員の分化度が高いほど、家族内において相互依存が生じる。
- 3 家族の内と外は、区別されず連続している。
- 4 ある家族の全体が有する力は、各家族員が持つ力の総和に等しい。
- 5 多世代家族において、一つの世代の家族の不安は、別の世代の家族に影響を与えない。

問題 100 事例を読んで、エコシステムの視点に基づく E さんへの F ソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応として、適切なものを 2 つ選びなさい。

〔事 例〕

U 里親養育包括支援(フォスタリング)機関の F ソーシャルワーカーは、里親の E さん(42 歳、女性)宅へ訪問した際、委託を受け養育している G ちゃん(10 歳、女兒)のことで相談を受けた。G ちゃんは、最近無断で学校を休み、友達の H ちゃんと万引きをした。E さんは G ちゃんに注意し、諭したが、G ちゃんは二日前に再び万引きをした。E さんは夫に心配を掛けてはすまないと思い、一人で対処してきたが、自分の里親としての力のなさに失望している。

- 1 「G ちゃんの万引きがやまなければ、児童相談所に委託の解除を相談してはいいかどうか」
- 2 「G ちゃんを通う学校の先生に、G ちゃんの学校での様子について尋ねてみてはいいかどうか」
- 3 「H ちゃんとの付き合いが、G ちゃんの問題を引き起こしているのでしょう」
- 4 「お一人で悩まれずに、G ちゃんのことをご夫婦で話し合われてはいいかどうか」
- 5 「G ちゃんに欲しい物を尋ね、買ってあげてはいいかどうか」

問題 101 次のうち、ソーシャルワークにおける機能的アプローチに関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアントが被っている差別や抑圧に対抗するため、既存の制度や政策を批判し、これらの変革を目指す。
- 2 クライアントとのコミュニケーションを通じ、クライアントのパーソナリティの変容と環境との機能不全の改善を目指す。
- 3 クライアントのニーズを機関の機能との関係で明確化し、援助過程の中でクライアントの社会的機能の向上を目指す。
- 4 クライアントの望ましい行動を増加させ、好ましくない行動を減少させることを目指す。
- 5 クライアントの問題の解決へのイメージに焦点を当て、問題が解決した状態を実現することにより、クライアントの社会的機能の向上を目指す。

問題 102 事例を読んで、N市の地域包括支援センターのJ社会福祉士の初回面接の対応に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

J社会福祉士は、初めて地域包括支援センターに来所したKさん(66歳、女性)の相談を受けた。「娘が結婚して家を出て以来、夫と二人で暮らしてきました。1年前に夫が定年で退職した頃から、夫が塞ぎ込み不眠にも悩まされるようになりました。V病院を受診していますが、一向に良くなりません。私にささいなことで怒鳴ることがあり、どうしたらいいか分かりません」と不安そうに話した。

- 1 夫婦間の問題であるため、配偶者暴力相談支援センターに相談するよう伝える。
- 2 夫の不眠の症状を改善させる方法をアドバイスする。
- 3 Kさんが問題や不安を落ち着いて語れるように心掛ける。
- 4 V病院にKさんの夫の医療情報を照会する。
- 5 Kさんに対して地域包括支援センターの役割について説明する。

問題 103 事例を読んで、課題中心アプローチに基づくL指導員(社会福祉士)の応答として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

W自立援助ホームのL指導員は、Mさん(18歳、男性)から将来についての相談を受けた。Mさんは就職をして一人暮らしをしたいと思っているが、求人募集に何度応募しても不採用が続いている。自信を失ったMさんは、「また駄目かもしれないと思うと、面接が怖いです」とうつむいた。

- 1 「就職活動をする上で、今、何が一番問題だとMさんは思われますか」と尋ねる。
- 2 「面接が奇跡的にうまくいったとしたら、どのように感じますか」と尋ねる。
- 3 「面接が怖いのであれば、採用試験に面接がない職場を探しましょう」と提案する。
- 4 「Mさんが次の面接の日までに取り組む具体的な目標を一緒に考えましょう」と提案する。
- 5 「大丈夫、Mさんなら自信を持って何でもできますよ」と励ます。

問題 104 事例を読んで、在日外国人支援を行う X 団体の A 相談員(社会福祉士)による B さんへのこの時点での対応として、適切なものを 2 つ選びなさい。

〔事 例〕

外国籍の日系人 B さん(45 歳, 男性)は、半年前に来日し、Y 社で働いていたが、1 か月前に Y 社が倒産し職を失った。今後の生活について相談するため、在日外国人支援を行う X 団体を訪ねた。A 相談員との面接では、以下のことを語った。母国では、今日まで続く不況により一家を養える仕事に就けず、家族の生活費を稼ぐため来日したこと。近い将来、母国で暮らす家族を呼び寄せたいと思っていること。現在求職中であるが日本語能力の低さなどからか、仕事が見付からず、もうこのまま働けないのではと思っていること。手持ちのお金がなくなり当面の生活費が必要なこと。なお、B さんは在留資格(定住者)を有することを確認した。

- 1 一旦帰国することを提案する。
- 2 これまでの就労経験を確認し、働く上での強みを明らかにする。
- 3 生活福祉資金貸付制度などの仕組みを説明し、希望があれば窓口へ同行することを提案する。
- 4 日本語を学び直し、日本語能力を早急に高めることを勧める。
- 5 家族を呼び寄せることは無理であると伝える。

問題 105 次のうち、相談援助の過程におけるモニタリングに関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. クライアントに対する一連の支援終結後に、支援計画の妥当性や効果を測る段階である。
2. 支援再開の要否確認のため、問題再発の有無などクライアントの生活状況を確認する段階である。
3. 支援計画見直しのため、クライアントの状態変化のありように関する情報を収集する段階である。
4. 支援を開始するため、クライアントの問題を把握し、援助関係を形成する段階である。
5. 計画どおりに援助が展開されているか否か、計画された援助が効果を上げているか否かなど、援助の経過を観察する段階である。

問題 106 次のうち、生活モデルにおけるクライアントの捉え方として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 環境から一方的に影響を受ける人
2. 成長のための力を有する人
3. 治療を必要とする人
4. パーソナリティの変容が必要な人
5. 問題の原因を有する人

問題 107 事例を読んで、Z大学の障害学生支援室のCソーシャルワーカー(社会福祉士)のDさんへのこの時点での対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Z大学3年生のDさん(21歳、男性)は入学前に交通事故に遭い、日常的に車いすを使用している。Dさんの入学以来、Cソーシャルワーカーは面接を行い、必要な支援を提供してきた。ある日、Dさんが卒業後の生活について相談したいと障害学生支援室を訪れた。「就職活動をする時期になり、卒業後は一人暮らしをしたいと両親に伝えました。両親は、最初は反対していましたが、最終的には賛成してくれました。でも、実際に将来のことを考え始めたら様々なことがとても不安で、就職活動が手につきそうにありません」と、Dさんは思い詰めた表情で話した。

- 1 両親にはこれ以上心配を掛けないよう、自分で解決するように伝える。
- 2 CソーシャルワーカーがDさんにとって良いと考える具体的な就職先を伝える。
- 3 不安について具体的に話すよう促し、解決すべき問題を一緒に整理する。
- 4 障害者の自立生活や就職活動の経験者がいる自助グループへの参加を提案する。
- 5 就職して一人暮らしをすることは十分可能なので、自信を持つように伝える。

問題 108 事例を読んで、Uがん診療連携拠点病院のE医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)による応答として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Uがん診療連携拠点病院のE医療ソーシャルワーカーは、入院以来関わり続けてきた末期がん患者のFさん(48歳、男性)の妻Gさんから次のような相談を受けた。「夫も私も納得して、緩和ケアに変更して積極的な治療を行わないことを決めたのですが、もしかしたら明日効果的な薬が開発されるかもしれないし、果たしてその決断が正しかったのか。今後のことを考えると私は不安で不安で仕方ありません。今の私は亡くなっていく夫を支えていく自信がありません」と話した。

- 1 「心配ですね。でも、Fさんはすぐに亡くなると決まったわけではありませんよ」
- 2 「Gさんなら最後までFさんに寄り添う力がありますよ」
- 3 「決断に迷いがあるのですね。そのお気持ちをもう少しお話しいただけますか」
- 4 「おつらいですね。Fさんを支えていく手立てをご一緒に考えていきませんか」
- 5 「がんの最新の治療方法を調べてお教えしますね」

問題 109 次の記述のうち、ソーシャルワーカーが用いる面接技法に関する説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 明確化とは、クライアントを精神的に支えるための応答をすることである。
- 2 閉じられた質問とは、クライアントに多くの語りを促す質問方法である。
- 3 支持とは、クライアントの語りをソーシャルワーカーが明確にして返すことである。
- 4 開かれた質問とは、クライアントが、「はい」や「いいえ」など一言で答えが言える質問方法である。
- 5 要約とは、クライアントが語った内容をまとめて反射することである。

問題 110 事例を読んで、V母子生活支援施設(以下「V施設」という。)のH母子支援員(社会福祉士)がJさんに家庭訪問を提案した目的として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Jさん(38歳、女性)は、半年前にV施設を退所した。退所後は仕事をしながら、息子(12歳)と共にV施設の隣町のアパートで暮らしていた。しかし、最近になって体調を崩し、自己都合により退職した。Jさんは生活に不安を覚え、V施設の支援担当者だったH母子支援員に電話をした。電話では、再就職活動をしているが、適切な職場が見付かっていないこと、手持ちのお金が底をつきそうで今後の生活に不安があること、思春期を迎える息子とのコミュニケーションに戸惑いがあることなどがJさんから話された。話を聞いたH母子支援員は、支援の必要性を感じ早期の家庭訪問を提案した。

- 1 アパートの家主に同席を願い、Jさんの状況を知ってもらうため。
- 2 時間の長さを気にせず、訪問面接を行うため。
- 3 Jさんの生活状況を把握するため。
- 4 Jさんが、緊張感を持って訪問面接に臨めるようにするため。
- 5 息子の様子を知るため。

問題 111 ケアマネジメントの過程に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アセスメントとは、クライアントや家族の意向に沿ってニーズを充足する方法を決定することである。
- 2 ケアプランの作成とは、ケアマネジメントの対象となるかどうかを確認することである。
- 3 ケアプランの実施とは、ケアマネジメントについて説明をし、利用意思を文書等により確認することである。
- 4 リファerralとは、支援が望まれると判断された人々を、地域の関係機関等が支援提供機関などに連絡し、紹介することである。
- 5 スクリーニングとは、一定期間の後に支援経過と結果を全体的に評価することである。

問題 112 次のうち、ネットワークに関する記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ジェノグラムは、クライアントを取り巻く人間関係や社会環境における資源のネットワークを可視化したものである。
- 2 地域で構築される個別の課題に対する発見・見守りネットワークは、専門職を中心に構成される。
- 3 ラウンドテーブルとは、ボランティアグループのリーダーが参加する活動代表者ネットワークである。
- 4 多職種ネットワークでは、メンバーができるだけ同じ役割を担うようにコーディネートする。
- 5 個人を取り巻くネットワークには、個人にプラスの影響を与えるものと、マイナスの影響を与えるものの双方がある。

問題 113 グループワークに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コイル(Coyle, G.)は、ミシガン学派に所属し、個人を望ましい方向に向けて治療する治療モデルを提唱した。
- 2 コノプカ(Konopka, G.)は、グループワークの14の原則を示し、治療教育的グループワークの発展に貢献した。
- 3 ヴインター(Vinter, R.)は、ソーシャルワーカーの役割を、メンバーとグループの媒介者とし、相互作用モデルを提唱した。
- 4 トレッカー(Trecker, H.)は、セツルメントやYWCAの実践を基盤とし、グループワークの母と呼ばれた。
- 5 シュワルツ(Schwartz, W.)は、アメリカ・グループワーカー協会で採択された「グループワーカーの機能に関する定義」(1949年)を起草した。

問題 114 次のうち、複数のスーパーバイザーがスーパーバイザーの同席なしに行う

スーパービジョンの形態として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピア・スーパービジョン
- 2 グループ・スーパービジョン
- 3 ライブ・スーパービジョン
- 4 個人スーパービジョン
- 5 セルフ・スーパービジョン

問題 115 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、逐語体の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントの基本的属性に関する事項を整理して記述する。
- 2 経過記録などに用いられ、ソーシャルワーク過程の事実経過を簡潔に記述する。
- 3 出来事の主題に関連して重要度の高いものを整理し、要点をまとめて記述する。
- 4 出来事に対するソーシャルワーカーの解釈や見解を記述する。
- 5 ソーシャルワーカーとクライエントの会話における発言をありのままに再現して記述する。

問題 116 次の記述のうち、個人情報の保護に関する法律の内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 個人情報取扱事業者には、国・地方公共団体が含まれる。
- 2 個人情報の取扱いが5,000人以下の事業者は、法律の適用対象外である。
- 3 個人情報には、個人の身体的な特徴に関する情報が含まれる。
- 4 認定個人情報保護団体とは、市町村の認定を受けた民間団体である。
- 5 要配慮個人情報とは、本人が配慮を申し立てた個人情報のことである。

問題 117 事例を読んで、P市社会福祉協議会のKソーシャルワーカー(社会福祉士)によるソーシャルアクションの実践として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Kソーシャルワーカーは、以前から面識のあったLさん(32歳)から相談を受けた。Lさんの同性のパートナーであるMさん(35歳)が、残業が続くつらい日々の中、職場で倒れて病院に救急搬送され、緊急手術を受けた。Lさんは、すぐに病院に駆けつけ面会しようとしたが、病院からは、「家族ではないため面会はできない」と伝えられた。「自分たちの関係が社会的に認められず、何かあったときに助け合うこともできない」とLさんは涙ながらに訴えた。Kソーシャルワーカーは上司と相談し、LGBTへの偏見や差別を解消し、地域住民の理解を深めるために、支援を行うことにした。

- 1 地域住民の反発を避け、円滑に医療を受けることを優先し、まずは病院の規則のとおりにするようアドバイスをする。
- 2 LGBTを支援する団体と連携し、同じような経験をした人の意見交換の場をつくる。
- 3 病院内の退院支援に向けたカンファレンスに参加し、Mさんの今後の地域生活で必要な医療的ケアについて検討する。
- 4 Mさんの職場に対し、長時間労働が常態化する職場環境の改善を求めて交渉する。
- 5 他市の「同性パートナーシップ証明」発行の取組について、地域住民を対象とした学習会を開催する。

問題 118 事例を読んで、Q市社会福祉協議会のAソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Q市社会福祉協議会で民生委員協議会の支援に従事するAソーシャルワーカーは、市内の地区民生委員協議会のB会長から相談を受けた。最近、民生委員協議会の定例会で、個別のケースで対応に困る事例が増えていることや、市からの地域活動への協力依頼が多く負担が重いという意見が出てきており、会長としてどのように対応すればよいか悩んでいるとのことだった。

- 1 困難な問題を抱える家庭の個別対応については、住民懇談会で広く協議することを提案する。
- 2 どうすれば負担が軽減できるか、上部団体であるQ市社会福祉協議会へ解決を委任する。
- 3 地域活動に対する民生委員協議会の関わり方については、自治会・町内会で計画を立てることを促す。
- 4 市の担当職員を定例会に呼び、市からの協力依頼についてどうすれば負担が軽減できるか協議する。
- 5 負担感を訴える民生委員の代わりに、新たに民生委員になれる人を探す。